

下商物語

野球部について

教諭 林 俊行

昨春秋の中国大会で昭和五三年以来久しぶりに優勝し、今年の三月に開催された選抜甲子園大会に二九年ぶり(夏の甲子園大会は平成七年に出場)に念願の出場を果たした硬式野球部のことについて紹介します。

記録によると結成は明治三一年の秋で、当時は専用の練習グラウンドのない入江町校舎の時代で不自由を強いられたようでした。このころはまだ野球のルールも十分に統一されていない草創期で今ではおよそ想像できない時代であったようです。ちなみに、この創部当時のユニホームは背番号ではなく胸に番号が記されているものでした。大正時代になると今までの大畠練兵場から名池山校舎近くの赤間閣高等小学校の広い練習場を使用して練習に励んだ結果、山陽大会等のある程度大きな大会に出場して実力が上がってきたようです。千畳原校舎となった昭和の初期には明治神宮の選抜大会(現在の国

体)に相当に初出場を果たすことができ、これが初の全国大会出場となるようです。昭和三年の春には選抜甲子園大会にも初出場を果たし創部以来約三十年を経て第一期黄金時代を迎えました。夏の甲子園大会の初出場は昭和一三年で、昭和一四年の全国準優勝の栄冠に輝き、以来昭和一六年春までの六度にわたる甲子園大会出場は春夏を通じての連続出場という快挙で第二期の黄金時代を迎えました。その後、戦争中は活動を休止せざるをえなかったのですが、終戦直後の昭和二〇年九月には、活動を再開(戦時下では本校グラウンドは食料確保のために芋畑となっていたのを整地)しましたが、本校各部活動の中で最も早かったようです。翌年の昭和二一年夏の大会から二三年の春にいたる春夏連続四回にわたって甲子園大会に連続出場を果たし戦後の黄金期を実現させました。新制高校となった昭和二三年以降では、昭和三八年の全

国制覇(春の甲子園大会)、準優勝(夏の甲子園大会)、そして、全国制覇(秋の山口国体)を成し遂げた特筆すべき成果を成し遂げ、全国に「S」のマークの存在を大いに広めた記念すべき年となりました。ちなみに、現在までの甲子園大会出場回数は、通算三二回(春一四回・夏八回)で山口県下の高校では最多の出場回数を誇っています。また、本校からプロ野球界に進まれて活躍された選手は、プロ野球界で初の完全試合を達成された故藤本英雄さんや甲子園優勝投手の池永正明さんをはじめ二五名おられます。

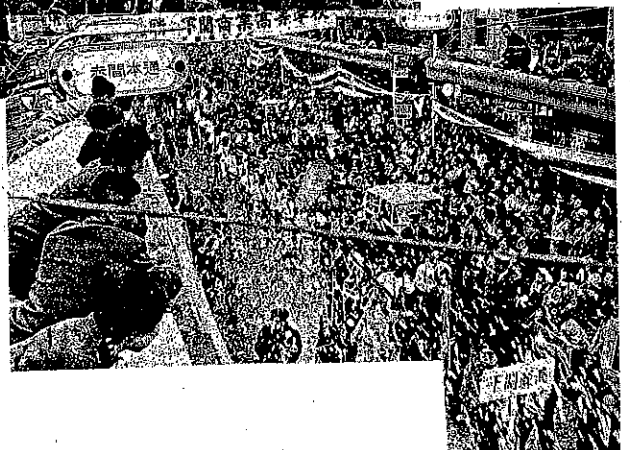
参考までに平成十年秋にめでたく創部百周年を迎え、沖縄県立沖縄水産高校と下関球場にて記念試合を行い、全校生徒・教職員・保護者・卒業生など多数でお祝いしました。

なお、平成八年度で惜しまれて廃部となった軟式野球部は、昭和四三年の全国大会で優勝戦に静岡商業高校と対戦し、延長一八回で決着がつかず日程の都合で特例によって、優勝預かりといった措置で両校ともに全国準優勝となりました。また、廃部の前年春には中国大会で優勝しましたが、翌年の全国大会県予選会で惜しくも準優勝だったため、この年の夏は惜しくも念願だった硬式・軟式揃っての全国大会出場は叶わなかったのです。本校のグラウンドでお互いに背を向けて互いに声を掛け合いながら硬式・軟式野球部が練習していた頃を懐かしく感じています。

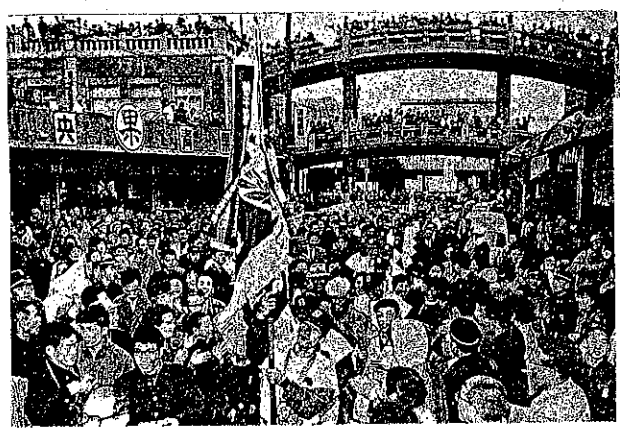
大優勝旗 郷土に



山口県庁前



赤間町



唐戸